

〔二〕 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

伏見の修理の大夫俊綱ときこえし人も、ひとつ腹におはしき。その御母は贈二位、讃岐守俊遠とあひ具し給へりければ、俊綱の君御子におはしけれど、けざやかならぬほどなりければにや、なほ俊遠のぬしの子の定にて、^①橘の俊綱とてぞおはせし。後になほ殿の御子とて、藤原になり給へりき。直衣など着られけるをも、橘直衣とぞ人は申しける。まめやかになりて後、大殿、宇治の大僧正、四条宮などは同じ御腹なれど、修理の大夫は下藤にてやみ給ひにしぞかし。上達部にだにえならざりける、なほ世の上がりたるにや、からくや思しけむとぞ覚え侍りし。(中略)

この修理の大夫の、昔尾張国に俊綱といひける聖にておはしけるを、熱田の社の司のながしろなることありければ、生まれ変はりて、その国の守になりて、かの国に下るままに、熱田に詣でてその大宮司とかをかなしくせためられなどしければ、「過ちなきものをかくつかまつる」など神に申しければ、夢に「昔俊綱といひてありし聖の、法施を年頃得させたりしかば、いかにもとがむまじき」とぞ見たりける。しかならむために、^②国の司のしなにも生まれ給ひにけるにこそ。さすが昔の行ひの力に、関白の子にてもおはするなるべし。「我も昔、その物納めたりき」などいひて、鏡取り出ださせなどせられけり。ただ人におはせざるべし。

大殿伏見へおはしましたりけるも、すずろなる所へはおはしますまじきに、雪の降りたりけるつとめて、「俊綱がいたくふけらかすに、^dにはかに行きてみむ」とて、播磨守師信といふ人ばかり御供にて、^③にはかに渡らせ給ひたりければ、思ひ寄らぬことにて、修理の大夫騒ぎ出でて、雪御覧じ、御物語などせさせ給ふほどに、師信、「かく渡らせ給ひたるに、とくしかるべきあるじなどつかうまつれ」などもよほしければ、俊綱、「今贄殿参り侍りなむ」と申しければ、「人にも知られで渡らせ給ひたれば、贄殿参ることあるまじ。日もやうやう長けて、いかでか御設けなくてあらむ」といひければ、殿笑はせ給ひて、「ただせめよ」など仰せられるほどに、家の司なるあきまさといひて、光俊、有重などいふ学生の親なりし男、気色きこえければ、修理の大夫立ち出でて、帰り参りて、「あるじして

A

べきやう侍らざなり。御台などの新しきも、かく御覧する山のあなたに、

倉に置きこめて侍れば、便なく、取り出づべきやう侍らず。あらはに侍るは、皆人の用ゐたる」由申しければ、「何の憚りかあらむ。ただ取り出だせ」と仰せられければ、「さは」とて立ち出でて取り出ださせけるに、いろいろの狩装束したる伏見侍十人、いろいろの袷あこめに、いひ知らぬ染め交ぜしたる帷子かたびら、くくり、かけとちなどしたる、雑仕ざふし十人引き連れて、倉の鍵持ちたる男、先に立ち渡るほど、雪に映えてわざとかねてしたるやうなりけり。先にあと踏みつけたるを、後に続きたる男女、同じあとを踏みて行きけり。

かへさには、御台たかつき、高坏たかうし、銀の銚子てうしなど一つづつ捧さかげて、鍵持ちたるは、この度は後に立ちてかへりぬ。かかるほどに、上達部てんじやうびと、殿上人くわんじやうじん、藏人所の家司けいし、職事しきじ、御隨身みざいじんなどさまざまに参りこみたりけるに、このさかのさ、所々にいひ知らぬ供へども目もあやなりけり。師信、「いかにかくは、にはかにせられ侍るぞ」と「かねて夢など見侍りけるか」とたはぶれ申しければ、俊綱の君は、「いかでか、かかる山里に、かやうの事侍らむ用意なくては侍るべき」などぞ申されける。

【今鏡】による）

(注)

- 伏見ふせみ 現在の京都市伏見区のあたり。この文章では主人公の俊綱が住む土地とされている。 ○修理の大夫しゆりのだいふ 宮中の修理・造営をつかさどる役職の長官。 ○俊綱しゆんかう 藤原俊綱。平安時代後期の貴族。 ○ひとつ腹ひとつはら 同母の兄弟。
- 讃岐守俊遠さぬきのかみしゆんえん 橘俊遠。平安時代後期の貴族。 ○殿との 藤原頼通。平安時代後期の貴族。 ○直衣ちよく 平安時代の貴族の日常着。 ○大殿たいだん 藤原師実もろみね。平安時代後期の貴族。 摂政・関白の職についた。 ○宇治の大僧正うぢのだいそうじやう 覚円。平安時代後期の僧。法勝寺の初代別当などをとめた。 ○四条宮しよじやうのみや 後冷泉院ごれいせんいんの后ごとなった寛子。 ○下臈げらふ 官位・身分の低い者。 ○上達部じやうたつべ 撰政・関白・大臣・大納言・中納言など三位以上の貴族の総称。 ○なほ世の上なほよの上 たりるにやなりやはり昔のことだからか、今と違って。 ○熱田あつたの社やしろ 熱田神宮。愛知県名古屋市熱田区にある神社。伊勢神宮に次ぐ格式を持つ。 ○法施ほふせ ここでは、熱田神宮の神のために読経すること。 ○播磨守師信はりもののかみしゆん 藤原師信。平安時代後期の貴族。 ○贄殿ひだん 貴族の家で食料の保存・調理を行った場所。 ○あきまさ 未詳。 ○光俊みつとし、

有重 〓 未詳。 〇 学生 〓 大学や寺院で学問を修める者。 〇 裱 〓 下着と上の衣との間に着る短い衣。 〇 帷子 〓 裏をつけていない衣。 〇 くくり、かけとちなどしたる 〓 くくったり、糸を掛けて綴とじるなどの装飾を施した帷子。 〇 雑仕 〓 貴族の館などで雑役を行う女性。 〇 高坏 〓 食物を盛る、長い脚のついた台。 〇 銚子 〓 酒を注ぐための長い柄がついた金属製の器。 〇 蔵人所 〓 ここでは師実の館で事務を行う場所を指す。 〇 家司 〓 貴族の家の家政をつかさどる職員。 〇 職事 〓 蔵人所の職員。 〇 御隨身 〓 貴人の外出を警護する者。 〇 このさかのさ 〓 こちらやあちら。 あちこち。

問五 空欄 A には、現代語訳で「召し上がる」を意味する動詞が入ります。補うものとして、最も適当なものを一つ選

びなさい。

解答番号 25

- ① まゐる
- ② きこしめす
- ③ さしあぐ
- ④ たぶ